

富山県看護連盟 研修会報告	開催日	2019年4月20日
	時間	9:30～12:00
	場所	タワー111 スカイホール

研修会名	2019年度 新人研修会
内容	講演 1 「看護の道を歩み続けるには」 講師 富山県看護連盟青年部推進委員会委員長 盛田 大樹
	講演 2 「看護の未来と制度・政策」 講師 参議院議員 石田まさひろ先生
参加人数	303 名

**【研修会内容】**

講演 1 看護の仕事は①生涯を通して長く続けられる仕事 ②人の一生に関わることが出来る ③社会的信頼度が高い。看護師の仕事の割合のデータは49%が直接介助や診療介助であり、34%は記録や書類関係である。ベッドサイドへ行きたくても行けない現状である。現状の改善には、ルール(法律)の改善が不可欠。政治に無関心でも無関係ではいられない。私たちの声を国会に届けるために看護の代表を国会に送り続けなければならない。そのためにまずは選挙に行くことから始まる。夜勤や休日出勤があるので期日前投票を利用しましょう。



(三谷会長あいさつ)



(盛田青年部推進委員会委員長)

講演 2 看護は人として成長できる仕事である。看護をしている時自分自身が元気になれる。看護は人を癒すが、看護する側も癒される。「いい看護をしたい」「いい看護ができた」という感覚を一日に一回はもってほしい。そのように感じられる環境を作りたい。今は記録や書類の手続きが多すぎる。患者に寄り添うのが看護である。平均寿命が延びる中で、20代から80代まで一緒に働ける職場でなければならない。一人ひとりが出来る事をする看護環境をつくらなければならない。20年、30年後の病棟の姿は変わっており、AIの利用も進んでいると思う。「今日もいい看護ができた」と実感を持てるような環境を作っていく事が看護職代表議員としての仕事と思い取組んでいる。



(石田参議院議員)



(新人研修会参加者と)

**【まとめ】** 新人看護師として集まった面々には卒業後三週間ぶりの再会を喜び合っている光景がみられた。4月からの緊張の連続であったのだろう。石田議員の看護師時代の経験談やストレス解消法の話も興味深く参考になったと思う。時代が変わっても看護の本質は変わらないが、取り巻く環境は著しく変っている。常に先を見越して頭を柔軟にして取り組むことが必要。現場の声を国会の議員に届け我々の代表者として応援していくことが大切である。「いい看護」を実感できるよう一日一日を歩み進んで欲しい。「一人ではない。仲間が沢山いる。共に頑張ろう」とエールを送りたい。

報告者 研修委員 柄崎 マユミ